

いちじくの軽量ポット栽培の実証

農業技術振興センター企画情報部

【普及活動のねらい・対象】

いちじくは、比較的栽培が容易であり、熟度と鮮度が重視される地産地消型果樹として、今後も有望な作物です。花・果樹研究部で開発された軽量ポット栽培は、移動可能な隔離栽培であり、生産力が落ちた既存産地の改植や水稲育苗ハウスなどを有効活用した新規導入に適する技術です。そこで、簡易ハウスを用いて本技術の実証を行いました。

【普及活動の内容】

(1) 実証試験の概要

- 彦根市稲里町の実証ハウスに樹間 0.6m、列間 2.0m で 30 ポット設置
- 平成 23 年 5 月に自家育苗した苗木を培土 20 L のポットに定植し栽培
- 灌水は自動灌水としマニュアルに沿って管理



いちじくポット栽培の様子

(2) 調査結果

- 定植 1 年目から 1.3kg/樹の収穫があり、2 年目は 8 月 7 日から収穫が始まり 3.1kg/樹の収量となりました。ノズルの詰まりにより一部に高温障害が発生し、720 ポット/10a で換算すると 2.2t/10a と当初目標（経営ハンドブック）の 90%の収量となりました（表 1）。
- 果実品質では、地植え栽培と比べやや小玉ではあったものの、平均糖度に差はありませんでした（表 2）。

表 - 1 いちじくポット栽培の収量

	収量 (kg/樹)	収穫果数 (果/樹)	果重 (g/果)
1年目	1.3	19.5	66
2年目	3.1	35.5	88

表 - 2 いちじくポット栽培の果実品質(平成24年)

	果重 (g/果)	平均糖度 (%)	着色度 (0~5)
ハウス ポット	82.7	13.4	3.8
ハウス 地植え	99.1	13.5	3.7
露地 地植え	96.9	13.8	4.7

【普及活動の成果】

県内のいちじく軽量ポット栽培は平成 24 年で、11 農家(内法人 4 法人)で 31a に導入されています(図 1)。この技術は導入農家からの評価も高く、今後も引き続き、集落営農組織や水稲大規模農家の複合品目として導入を図っていきます。

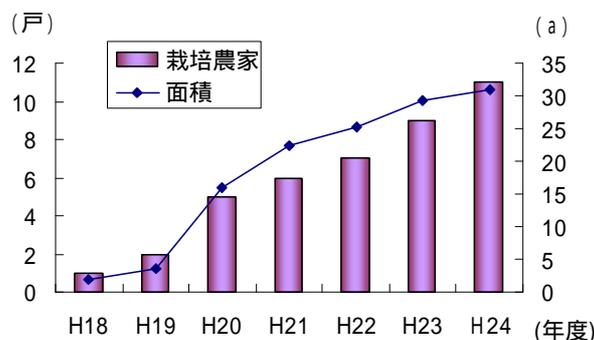


図 - 1 いちじく軽量ポット栽培の導入の推移